

# 第 4 学 年

## 1 研究主題 「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」

－ 国語科「話す・聞く」の学習を通して －

## 2 育てたい力

### ◆表現力

- 大事なことを落とさずに，筋道を立てて話す力
- 考えをまとめながら話す力

### ◆コミュニケーション力

- 互いの考えの共通点や相違点を考えながら，進んで話し合う力
- 進んで思いや考えを交流させ，互いのよさを認め合う力

## 3 研究の視点と手だて

### [視点 1] 国語科の基礎基本の定着を図る指導の工夫

- ワークシートの工夫
- メモの取り方の指導

### [視点 2] 「話す・聞く」力を高めるための話し合い活動における工夫

- 話し合いの形態の工夫（ペア・グループ・学級全体等）
- 話し合いにふさわしい場の設定（特別教室の利用、机の配置の工夫等）

### [視点 3] 日常的な活動の場の工夫

- 朝の会・帰りの会でのスピーチの定着化
- 相手や状況にふさわしい言葉遣いの意識化

## 第4学年 成果と課題

4学年では国語科の「話す・聞く」の学習を通して、表現力やコミュニケーション力を高めたいと考え一年間実践を重ねてきた。表現力とは主に「要点をおさえて話すこと」、コミュニケーション力とは主に「思いや考えを進んで交流させること」ととらえ、国語の時間はもとより学校生活全般でこのような学習を意識した活動を設定した。そこから次のような成果と課題が得られた。

### 【視点1】国語科の基礎基本の定着を図る指導の工夫

#### ○ワークシートの工夫

国語科「伝言をまちがえずに」の単元では、指導次元や学級の実態にあわせたワークシートを準備し効果的に活用することができた。短い言葉で要点をおさえてメモさせるために、( )を使った穴うめ形式のワークシートが導入期や下位群の児童の理解を進める上で有効であった。

#### ○メモの取り方の指導

児童が実際にとったメモを教材にしながら学習を進める中で、単語や箇条書きで書いたり自分なりのマークや略語を使ったりするとわかりやすいメモになることに児童自身が気づくことができた。その後、理科の実験・観察や社会の校外学習などでその学習が活かされてきている。

▲ワークシートがあまり親切すぎると子どもの思考力をさまたげてしまうおそれがあるので、その作成には十分な考慮が必要である。また、ワークシート形式より学習ファイルやノートを利用した形式で学習の跡を子ども自身が必要に応じてすぐにふり返れるようにしておくことさらに効果的だった。

### 【視点2】「話す・聞く」力を高めるための話し合い活動における工夫

#### ○話し合いの形態の工夫

学習内容によってペアの組み方を意図的に行ったことで、ひとりひとりの学習活動を十分に保証することができた。また、相手のことを思いやった話し方を意識する児童も見られた。

#### ○話し合いにふさわしい場の設定

国語科「伝言をまちがえずに」では、多目的室を利用して他グループの声がさまたげにならないように活動の場を設定した。ゆったりとした空間で学習することは子どもにとってもリラックスでき、学習に対する意欲が高まった。

▲「メモをもとに話す（伝える）」という活動は個人差が大きく、担任一人では十分に対応できなかった。「話す」ことが苦手な児童に対する効果的な工夫が必要である。

### 【視点3】日常的な活動の場の工夫

#### ○朝の会、帰りの会でのスピーチの定着化

5W1Hを意識したスピーチを行うことで、話すことに対する抵抗感が少し軽くなった児童もいる。

#### ○相手や状況にふさわしい言葉づかいの意識化

おしゃべりではない話し方、場に応じた言葉遣いの定着を意識して指導を継続している。

▲スピーチの内容を定期的に変えるなどして、児童の意欲・関心を持続させていく工夫が必要である。

▲児童の活動時間をしっかりと確保するために、朝の会などが長引いてしまうことがあった。